



ホームページ上でも
IR情報を公開しています。

『クレオ ニュース配信サービスのご案内』

当社では、投資家の皆様に向けてより迅速に情報をお送りするため、メール配信サービスを行っています。
メール配信サービスでは、IRニュースを中心としたクレオのニュースをいち早くe-mailでお届けします。
メール配信ご希望の方は、クレオのホームページよりご登録ください。

→ 株主メモ

決 算 期	3月31日
利益配当金受領株主確定日	3月31日 中間配当金(毎年9月末日) なお中間配当を実施するときの 株主確定日は9月30日
定 時 株 主 総 会	6月
基準日(定時株主総会関係)	3月31日
名義書換代理人事務取扱場所	三菱信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
(連 絡 先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)
事 務 取 次 所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 掲 載	当社ホームページ http://www.creo.co.jp

→ トピックス	TOPICS	2
→ 株主の皆様へ	TO OUR SHAREHOLDERS	3
→ セグメント別の概況	SEGMENT INFORMATION	4
→ クレオの「今」~ Close up	CLOSE UP	6
→ 中間連結決算のご報告(要約)	FINANCIAL STATEMENTS	8
→ 会社の概況 / 株式情報	CORPORATE DATA	10

株主通信

第31期 中間事業報告書
平成15年4月1日~平成15年9月30日



「筆まめ」が『パソコン・ベスト・ソフト』第1位を受賞

日経BP社が主催する『第16回110万読者が選ぶパソコン・ベスト・ソフト』において、ハガキ作成ソフト「筆まめ」が7年連続で第1位を受賞し、9月17日、ホテルニューオータニ幕張にて表彰式が開催されました。応募総数16,000点のうち、「筆まめ」は表計算ソフト「エクセル」に次いで総合得点で第2位を獲得、なかでも扱いやすさや楽しさなどの点で高く評価され、ホーム・コンピュータリティー部門においては他ソフトを引き離して不動の地位を保っています。

「筆まめ」についてはP.6の特集をご覧ください。



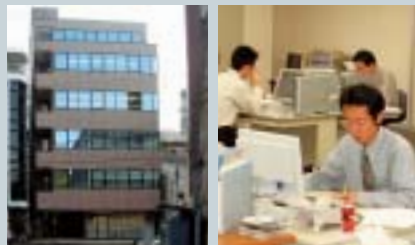
関西でCBMS事業の本格展開を開始

平成15年11月6日、基幹業務システム「CBMS(Creo Business Manager Series)会計 / 人事給与」の販売および技術支援の拠点を大阪に新設しました。「CBMS」は中堅企業から大企業まで、首都圏を中心に全国1,000社以上の導入実績をもっており、関西でもすでに約100社の企業に採用されています。グループ14社を含めた業務管理のためCBMS人事給与の運用を開始したココヨ株式会社様をはじめ、大規模なシステム導入も続いています。今回の拠点新設により、関西での代理店による新規導入企業開拓の支援と、導入企業のサポートを強化し、CBMS事業の拡大を図っていきます。



名古屋事業所拡大

当期から、名古屋事業所の拡張移転とともに同地区での事業を本格的に拡大していきます。平成15年11月11日には、中部地区を中心とするお客様を新事務所に迎えて披露パーティを開催しました。名古屋地区では、平成11年にトヨタ自動車車両販売店様からの「CBMS」製品大型受注を契機として事業所を開設し、活動してきました。近年はCBMS事業に加えてソリューション事業の受注も順調に伸びつつあり、拠点機能を拡充することでさらなる需要の高まりが期待できます。今後、東京本社、関西支社の2大拠点に次ぐ3つめの拠点として名古屋事業所を成長させながら、各拠点が連携してより機動力の高い営業・サポート活動を展開していきます。



提案力と製品力の強化を推進。 前年同期比で増収・増益を達成しました。

当連結中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善、株式市場の持ち直しなど、一部に回復の兆しが見えたものの、個人消費の停滞などが続き、景気は依然として不透明なまま推移しました。当情報サービス業界においてもIT投資の意思決定の長期化、投資案件の縮小、受注単価の低減など厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は4月に組織・人事を刷新するとともに本部制を導入し、製品競争力の強化と事業拡大に努めております。ベストセラーである毛筆印刷ソフト「筆まめ」については開発工程の改善により前倒し出荷することができ、前年より販売開始を早めました。システム開発事業では販路拡大により売上高を伸ばすことができ、さらにコスト削減により利益の拡大に努めてまいりました。

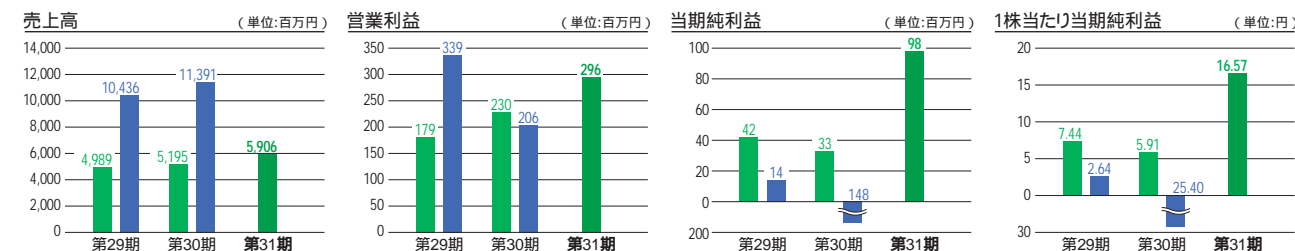
以上の結果、当連結中間期の連結業績は、売上高59億6百万円(前年同期比13.7%増)、経常利益2億94百万円(前年同期比27.9%増)、当期純利益98百万円(前年同期比191.1%増)となりました。

経済環境は、まだ予断を許さない状況ですが、当社はシステム開発の効率化・低コスト化をはじめとする多様な顧客ニーズに応えつつ、品質と信頼性を追求することで顧客満足度の向上に努めます。また、他社との連携や各事業間のシナジーを図り、業容の拡大と収益性の向上を図ってまいります。通期の連結業績の見通しにつきましては、売上高116億円、経常利益5億80百万円、当期純利益2億20百万円を見込んでおります。株主の皆様には引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長 川畑 種恭 (写真左)
代表取締役社長 大谷 武彦 (写真右)

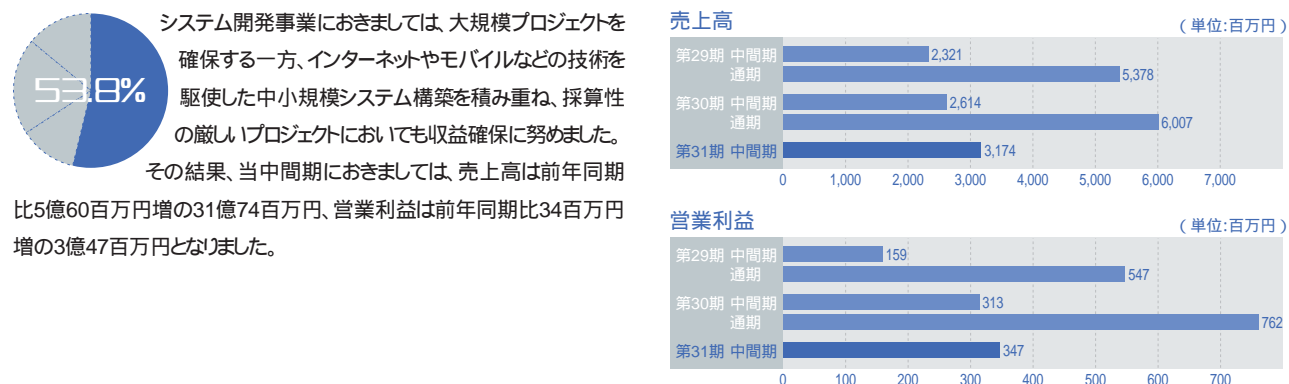
決算ハイライト (中間期 通期)



製品・サービスの拡充、コスト削減など、さまざまな面から収益向上に取り組みました。

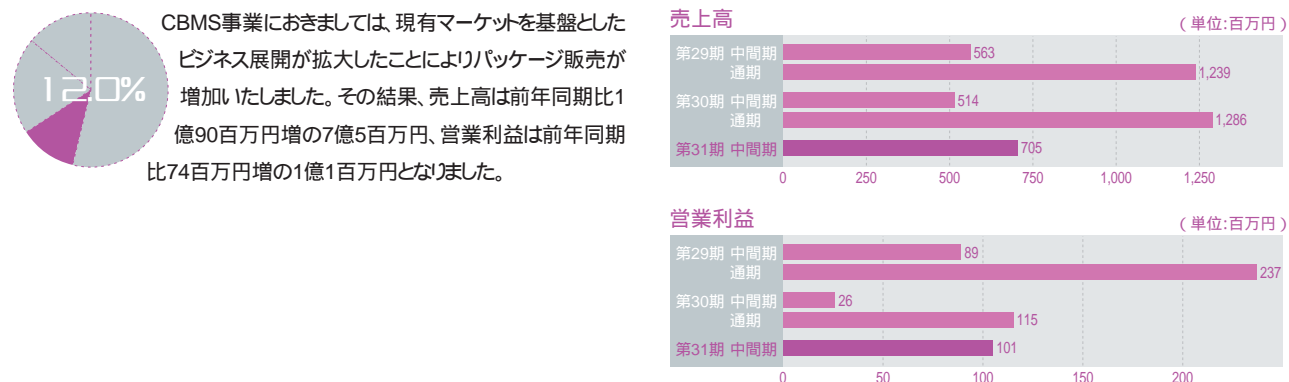
システム開発事業

システム開発事業におきましては、大規模プロジェクトを確保する一方、インターネットやモバイルなどの技術を駆使した中小規模システム構築を積み重ね、採算性の厳しいプロジェクトにおいても収益確保に努めました。その結果、当中間期におきましては、売上高は前年同期比5億60百万円増の31億74百万円、営業利益は前年同期比34百万円増の3億47百万円となりました。



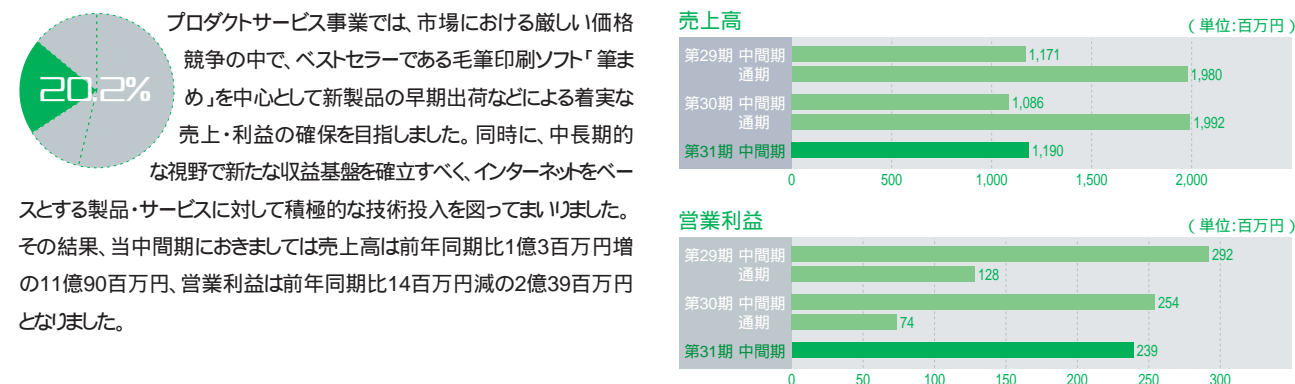
CBMS事業

CBMS事業におきましては、現有マーケットを基盤としたビジネス展開が拡大したことによりパッケージ販売が増加いたしました。その結果、売上高は前年同期比1億90百万円増の7億5百万円、営業利益は前年同期比74百万円増の1億1百万円となりました。



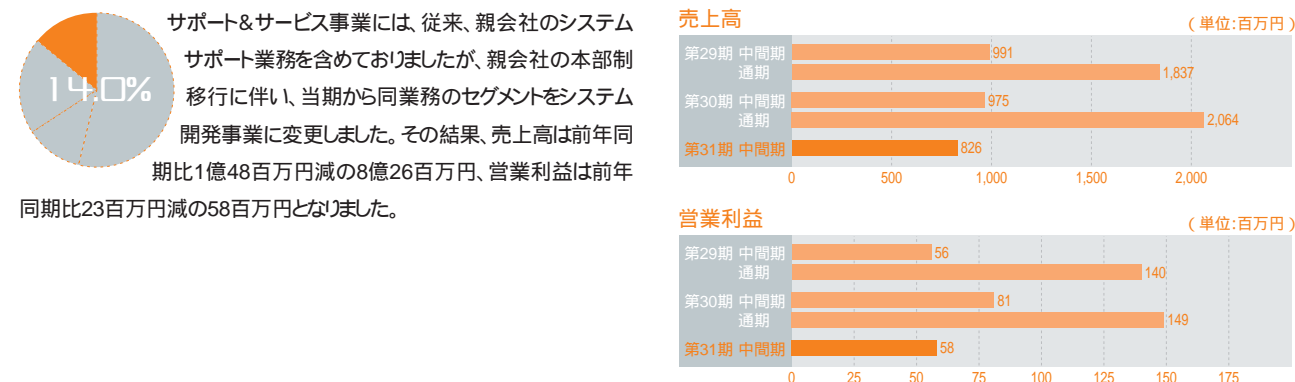
プロダクトサービス事業

プロダクトサービス事業では、市場における厳しい価格競争の中で、ベストセラーである毛筆印刷ソフト「筆まめ」を中心として新製品の早期出荷などによる着実な売上・利益の確保を目指しました。同時に、中長期的な視野で新たな収益基盤を確立すべく、インターネットをベースとする製品・サービスに対して積極的な技術投入を図ってまいりました。その結果、当中間期におきましては売上高は前年同期比1億3百万円増の11億90百万円、営業利益は前年同期比14百万円減の2億39百万円となりました。



サポート&サービス事業

サポート&サービス事業には、従来、親会社のシステムサポート業務を含めておりましたが、親会社の本部制移行に伴い、当期から同業務のセグメントをシステム開発事業に変更しました。その結果、売上高は前年同期比1億48百万円減の8億26百万円、営業利益は前年同期比23百万円減の58百万円となりました。

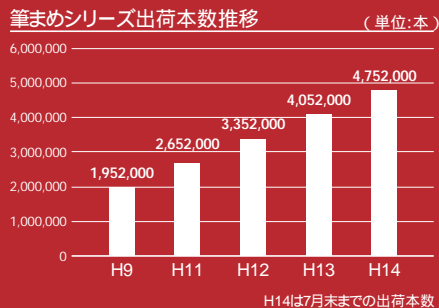




CLOSE UP 第1回 クレオの「今」

パッケージ商品からインターネットサービスへと進化し続ける No.1毛筆印刷ソフト「筆まめ」

クレオの広告塔ともいえる主力商品「筆まめ」は、100万人を超えるユーザーの声を反映して絶えず進化を続けています。今回はその事業展開についてご紹介します。



Q 開発の経緯と現状について教えてください

A 発売から13年、さらにパワーアップした「筆まめ Ver.14」が登場しました。

発端は昭和55年(1980年)に遡ります。社員数人が集まって、当時一部で注目されつつあったマイコンで動くゲームなどをつくって遊ぶという社内クラブ活動が、翌年にはパソコンソフトウェア開発プロジェクトへと変貌していきました。そして昭和58年(1983年)に発売した日本語ワープロソフト「ユーカラ」がヒットし、そこで培ったパッケージソフト製品開発のノウハウが「筆まめ」開発につながったのです。

平成2年の発売以来、「筆まめ」はユーザーの声を反映しながらバージョンアップを続け、当社の主力商品へと成長するとともに、市場でトップシェアの地位を独走し続けています。平成15年9月には、新たにVer.14の販売を開始しました。高品質、高級感をコンセプトとする「筆まめVer.14」は、競合商品と比べてやや高めな価格設定にもかかわらず好調な出足を見せています。

今回のバージョンアップでは、人気アーティストのイラストやフォントを採用したほか、日本古来の色彩や、これまで困難とされていた金色までも標準の4色インクで再現可能としました。また、わずか3ステップで年賀状ができるスピード作成機能も搭載し、凝った年賀状を作成したい上級ユーザーから初めて年賀状ソフトを使う方まで、幅広いユーザーのニーズに応える機能を満載しています。



筆まめVer.14



筆まめ 豪華版 匠

Q インターネット展開もしていますか？

A 利便性の高い「筆まめBBサービス」を提供、ユーザーが急増中です。

家庭における急速なブロードバンド環境の普及に先駆けて、平成14年11月から「筆まめBBサービス」を開始しています。インターネットを経由して、いつでも最新のイラストやフォントなどのコンテンツや電話番号辞書、郵便番号辞書を検索・ダウンロードしたり、「筆まめ」の住所録をPDAや携帯電話と共有できることから、全国のユーザーは常に最新の状態で「筆まめ」を利用できるようになりました。その利便性が好評を博し、加入者数は平成15年11月現在で1万人を超え、増え続けております。

このように「筆まめ」は、パッケージ商品の枠を超えて進化し続けています。販売形態についても、従来のようにパッケージ製品として店頭で販売する以外に、インターネットからユーザーにダウンロードしていただく方法で販売する形態も本格化してきました。今後は新たな展開として、新規コンテンツなどのソフトウェア商品を、一定期間無料で体験してから購入できる『TRY&BUY』の仕組みを活用した商品の提供にも取り組んでいきます。

「筆まめBBサービス」
<http://fudemame.net>よりアクセスできます。



Q 企業のシステムにも「筆まめ」は利用できるのでしょうか？

A 企業の各種業務システムと連動し、CRMの構築をサポートします。

答えは“YES”です。「筆まめ」には年賀状作成だけでなく、さまざまな活用法があります。近年、SI事業の伸長などに伴って法人市場での販売チャネルが整備できてきたこともあり、以前から視野に入れていた法人市場への「筆まめ」の提案を進めています。

企業活動においては、年賀状をはじめ新商品案内などのダイレクトメール、イベントの招待状、事務所の移転通知など多種多様な書類やコミュニケーションツールが用いられます。「筆まめ」を活用して住所や電話番号といった顧客の情報を一元管理し、全社のデータベースとして共有することで、書類送付や情報更新の作業を効率化できるほか、データの重複も避けられます。さらに、きめ細やかな情報発信により営業・顧客サービスを充実化させることも可能です。こうした活用法は、以前から個人経営の事務所や店舗で実施され好評を得ていますが、企業の複合的かつ大規模なシステムにも対応できるよう用途開発を進めています。

その一環として、平成15年4月に、企業の各種業務システムに「筆まめ」の機能を組み込むための開発キットの提供を開始しました。一例として営業、受発注、会計、物流管理などの業務システムと「筆まめ」を連動させることで、顧客情報管理システム(CRM構築)をサポートします。

常務取締役 コミュニケーション事業本部 本部長

岩淵 和夫

クレオのコア・プロダクトとして、「筆まめ」は法人市場でのソリューション展開を加速していきます。今後の「筆まめ」の事業拡大にご注目ください。



中間連結貸借対照表 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	前中間期(第30期) 平成14年9月30日現在	前期(第30期) 平成15年3月31日現在	当中間期(第31期) 平成15年9月30日現在
資産の部				
流動資産		5,778,165	5,332,890	6,488,565
固定資産		2,419,280	2,609,115	2,482,898
有形固定資産		446,742	431,422	416,784
無形固定資産		661,611	701,422	707,946
投資その他の資産		1,310,926	1,476,270	1,358,167
資産合計		8,197,446	7,942,005	8,971,464
負債の部				
流動負債		2,258,436	2,167,777	2,369,638
固定負債		222,897	194,447	883,244
負債合計		2,481,333	2,362,225	3,252,882
少数株主持分				
少数株主持分		101,264	106,541	109,573
資本の部				
資本金		2,330,650	2,330,650	2,330,650
資本剰余金		3,035,350	3,035,350	3,035,350
利益剰余金		319,308	136,766	231,704
その他有価証券評価差額金		47,117	3,528	38,158
自己株式		23,342	25,999	26,855
資本合計		5,614,848	5,473,239	5,609,007
負債、少数株主持分及び資本合計		8,197,446	7,942,005	8,971,464

POINT 1

流動資産と固定負債の増加につきましては、製品開発にともなう長期借入金による資金調達の影響によるものです。結果、資産合計ならびに負債、少数株主持分及び資本合計額が前期に比べ10億294百万円増加しています。(前期比14%増)

中間連結損益計算書 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	前中間期(第30期) 自平成14年4月1日現在 至平成14年9月30日現在	前期(第30期) 自平成14年4月1日現在 至平成15年3月31日現在	当中間期(第31期) 自平成15年4月1日現在 至平成15年9月30日現在
売上高		5,195,873	11,391,545	5,906,412
営業利益		230,036	206,681	296,490
経常利益		230,329	208,338	294,510
特別利益		—	150	8,825
特別損失		107,287	320,594	41,613
税金等調整前中間純利益又は当期純損失()		123,042	112,106	261,721
少数株主利益(控除)		14,805	20,082	8,432
中間純利益又は当期純損失()		33,931	148,610	98,788

POINT 2

「筆まめ」の前倒し出荷、システム開発事業の販路拡大により売上高を伸ばすとともにコスト削減に努めたほか、株式売却にともなう特別利益を計上することにより、増収増益となりました。

中間連結剰余金計算書 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	前中間期(第30期) 自平成14年4月1日現在 至平成14年9月30日現在	前期(第30期) 自平成14年4月1日現在 至平成15年3月31日現在	当中間期(第31期) 自平成15年4月1日現在 至平成15年9月30日現在
資本剰余金の部				
資本剰余金期首残高		2,968,450	2,968,450	3,035,350
資本剰余金増加高		66,900	66,900	—
資本剰余金中間期末残高		3,035,350	3,035,350	3,035,350
利益剰余金の部				
利益剰余金期首残高		313,757	313,757	136,766
利益剰余金増加高		33,931	—	98,788
利益剰余金減少高		28,380	176,990	3,850
利益剰余金中間期末残高		319,308	136,766	231,704

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:千円、単位未満切り捨て)

科目	期別	前中間期(第30期) 自平成14年4月1日現在 至平成14年9月30日現在	前期(第30期) 自平成14年4月1日現在 至平成15年3月31日現在	当中間期(第31期) 自平成15年4月1日現在 至平成15年9月30日現在
営業活動によるキャッシュ・フロー		396,970	186,991	123,117
投資活動によるキャッシュ・フロー		572,460	1,065,031	247,126
財務活動によるキャッシュ・フロー		65,990	38,018	691,010
現金及び現金同等物の増加額又は減少額()		903,441	840,020	320,766
現金及び現金同等物の期首残高		1,426,082	1,426,082	586,061
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		522,641	586,061	906,828

POINT 3

財務活動の結果、得られた資金は6億91百万円(前年同期比6億25百万円増)となりました。これは主に、長期借入金による資金調達によるものです。

会社の概況

会社概要 (平成15年9月30日現在)

商号 株式会社クレオ
 本社所在地 東京都港区高輪三丁目19番22号
 設立 昭和49年3月
 従業員 501名
 事業所 東京、横浜、大阪、名古屋

役員 (平成15年9月30日現在)

代表取締役会長 川畑種恭
 代表取締役社長 大谷武彦
 専務取締役 秋山雅幸
 常務取締役 村田晋
 常務取締役 岩淵和夫
 取締役 木庭清
 常勤監査役 荒井道夫
 監査役 岩淵正紀
 監査役 谷舘龍二

注)監査役 岩淵正紀及び監査役 谷舘龍二は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条1項に定める社外監査役であります。

株式情報

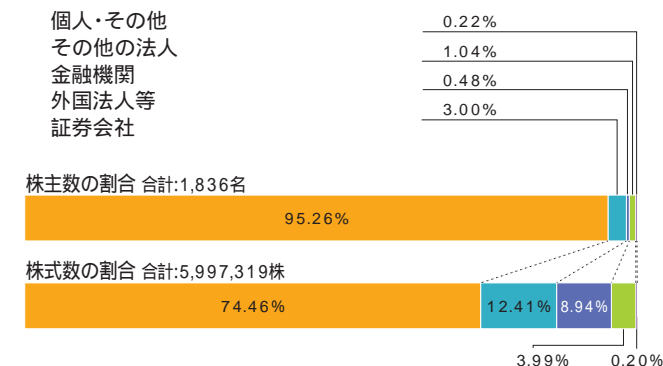
株式の状況 (平成15年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	16,000,000株
発行済株式総数	5,997,319株
資本金	2,330,650千円
株主数	1,836名

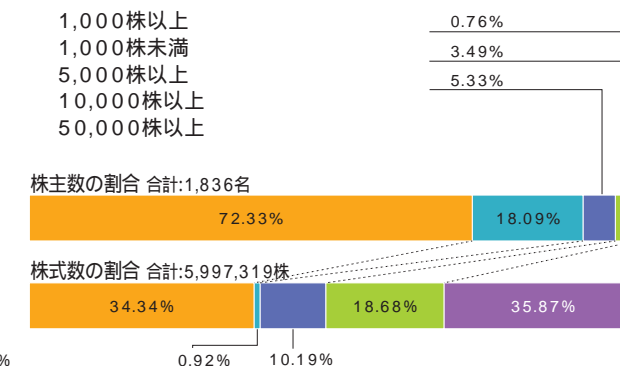
大株主 (平成15年9月30日現在)

株主名	持株数		当社の当該大株主への出資状況	
	(千株)	(%)	(千株)	(%)
川畑種恭	374	6.24	-	-
アジアパシフィックシステム 総研株式会社	300	5.00	225	5.00
株式会社みずほ銀行	283	4.74	-	-
富士通株式会社	189	3.16	121	0.00
大谷武彦	181	3.03	-	-
クレオ従業員持株会	168	2.81	-	-
竹田和平	110	1.83	-	-
ゴールドマン サックス インターナショナル	105	1.75	-	-
安田生命保険相互会社	100	1.67	-	-
山内秀夫	80	1.33	-	-

所有者別分布状況 (平成15年9月30日現在)



所有数別分布状況 (平成15年9月30日現在)



株価・出来高の推移 (平成15年9月30日現在)

